

別記様式(第4条関係)

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第5回加東市環境審議会
開催日時	平成30年3月22日(木) 午後2時から午後3時まで
開催場所	庁舎3階 302会議室
議長の氏名 (会長 三木秀文) 出席及び欠席委員の氏名 【出席】10名 三木秀文、渥美茂明、神戸洋一、岸本吉晴、藤原重和、新谷裕亮、宮崎良平、松尾美智子、山本正仁、森一仁 【欠席】1名 國井久明	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 副市長 吉田秋広 市民生活部 部 長 芹生泰博 生活課 課 長 眞海秀成 生活課 主 幹 長谷川貴子 生活課 主 査 今岡良介	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開会 2 会長あいさつ 3 審議事項 議事録署名人に、神戸洋一委員及び松尾美智子委員を選任 (1) 諮問第25号 環境基本計画の平成28年度年次報告について 事務局から資料に基づき説明 【質疑応答等】 議長 諮問第25号についての説明が終わりましたが、何かご質問はございませんでしょうか。 委員 年次報告とのことですが、今は29年度の終わりです。そして実際公表して皆さんが見ることになるのが29年度の終わりか30年度に入ってからになります。そしてその内容が28年度のもので、せめてもう少し早い段階で公表できないのかなと。何か前々年度の事を聞いているような感じがします。色々な事情があると思いますが、もう少し早く公表できるように努力をしていただけたらなというのが一つです。 もう一つは、取組目標の実績で、年度内で評価するものと、累積数で評価するものがあると思います。例えば、LEDの導入数の場合、基準年度より下がっているから、これはできていないという評価になってしまっていますが、累積数で見ると、26年度にはこれだけの数字があって、追加で27年度にこれだけ設置をされたということ	

ですが、その設置数が基準年度から下がっているからということで、マイナスの評価になっています。そこが疑問で、設置したことによってその効果がずっと続くものでしょうが、例えば目的を達成した次の年度がゼロの場合、何もしてないという評価になってしまいます。累積数で評価するものと、活動数で評価するもの、年度内だけでくれるもの、目標年度に向けて取り組みが高まっていつているものがあるように書いたほうが良いと思います。

議長 確かに 29 年度の終わりに 28 年度報告か、という感じがしますね。29 年度はまだ終わってないけれども、予測を入れた 29 年度という形も一つかもしれません。

委員 28 年度のものは、せめて 10 月ごろとか、29 年中ならまだ何とかわかりますが、30 年に入り、それが 3 月になってしまうと、28 年度の数字が過去の話になってしまいます。

議長 その辺りは、改善したほうが良いと感じます。

事務局 28 年度が終わり、市役所内の各課から様々な情報を集め、こちらで取りまとめて再度各課に確認してもらうという期間を設けており、遅くなってしまいましたが、今後は、もう少し早くできるように努力させていただきたいと思います。

やはり、30 年になってしまって、28 年度の内容ということになると、時間のずれを感じますので、今後注意したいと思います。

また、ご意見にありましたように、対象によって累積や前年度との対比で評価すべきといったところは、担当課とも相談しながら再度確認したいと思います。

議長 評価の基準を持ってもう一度、年度で評価する問題、累積で評価する問題を整理するというのはいいいと思います。

委員 今年の場合、全部見直すのはまた大変な作業になるでしょうから、次年度のときから少しずつ。そうでないとせっかくできていることができてないという評価になってしまって、できた、進んだ項目ほど単年度の評価が下がってくるという評価結果になってしまうものが、全部ではないですが多少見られます。

議長 確かに、言われるとおりですね。この加東市環境基本計画及び行動指針は、公共施設や公共のものに限って対象ということですか。

事務局 前半の 24 ページまでが、主に公共施設に関連しており、それに対しての評価ということになります。25 ページ以降は、市民の方が参加するものや、市民や事業所様に関連しているものに対して評価させていただいております。

委員 環境審議会で、現地視察を行っている太陽光について、今加東市にある産業用や住宅用の太陽光の数や、容量がどれくらいあるかという統計はありますか。

事務局 数字としては持っていますが、環境基本計画の指標において記載はありません。

委員 環境ということになると、太陽光というのは非常に重要な項目になるので、この中に入れるべきじゃないかなと思います。これだけ太陽光が色々なところに設置されているので。環境を破壊する場合もあると思いますが、重要な部分の指標として入れていただいたほうが、私は非常に良いと思います。

それと、公共関係に対する指標が出ていますが、これは毎年毎年目標を設定されて、数値的に何かされているものではないでしょうか。

事務局 実際のところ、環境基本計画が当初策定された際に、“目標値”という具体的な数字が設定されていません。このため、いただいたご意見のように、現状ではこの数字に向かってどう取り組んでいく、というところが明記されておられません。

委員 この数字に向かってやっていく、という意識が必要だと思いますので、年度毎の目標を持っていけばいいと思いますし、テーマを決めてこのように大きな改善をしたなど。されていることとは思いますが。

事務局 また、協議しながら考えていきたいです。

委員 目標が今ないという話ですが、2 ページにあるように環境目標で温室効果ガス 25% 削減と書いてあるので、これも目標値だと思います。

事務局 全体で大きく 25% 削減という目標値はありますが、細かくそれぞれの活動に対

しての数字というところがありません。

委員 計画策定から 10 年後は平成 33 年ですが、それを考えたときに、この 25% の中間値は出ていますか。例えば、25% 削減、すぐにできないことは分かっているから、徐々にしていきますよということで。今、経緯について説明していただきましたが、大体このような時期で、例えば 20% ぐらいなので、目標が達成できないかもしれないというような数字は出ないのでしょうか、途中経過として。

事務局 何% できた、25% に対してどんだけというところの調査はできていません。

委員 例えば最終的な数字の目標が、大きな数字だという事はわかります。この数字に対して目標達成は無理ですよというのが、今でしたら 28 年ですから 5 年経っているわけですからね。例えば、極端に言えば 12% 削減していたら、あと 12% いきますよとか、そういう話になってくると思います。数字等を具体的、客観的に見るとしたらこれぐらいしかないのかなと思います。それはわかりました。

それともう一点、来年から滝野地域と東条、社地域のごみ処理施設が一緒になりますよね。それに対するメリットと言いますか、形態的なものはみどり園の分が 1 カ所になるというのは分かるのですが、ここが一緒になったから、費用面は別にしても、温室効果ガスが何% ぐらい削減できますというようなメリットはないのでしょうか。

基本的に出る分は一緒なので、それはよくわかりますけどね。収集の方法も恐らく一緒だと思っています。

議長 何をもってその温室効果ガスの削減ができたかという、例えばガソリンの消費量であるとか、灯油の消費量であるとか、それから、電気の使用量であるとかというようなことを想定しながら、温室ガスに換算しています。

なので、全体を通して 25% としていますが、個々に何をもってどうしていくかという細かい目標についてはありません。しかし、今年度ガソリンは 100 リッター削減しますというようなことができたなら、計算はできていくでしょうけどね。

事務局 ごみ一元化の経費的な部分は、後々いずれ説明しないといけないかと思っています。まず環境の視点の部分ですけれども、今言われましたように、収集運搬することによって車両から、車を運転することで二酸化炭素が排出されます。それが走行距離によって変わるので、厳密にはその運搬距離がどうなるか、というところを積み上げていけば、どうだったのかというところは出ると思っております。

あとは、焼却については、同じものをどちらかで焼却することになりますので、そこは焼却方式、つまりみどり園の施設と小野クリーンセンターの施設の性能、その差になるというふうに思っています。

委員 ということは、この中に載せても余り意味がないということですかね。例えば、来年から 1 カ所にこんな集中しますよと。そういう予測としては出ないということですよ。効果があるかどうかはわかりませんがね。

事務局 どちらかといいましたら、ごみ処理基本計画という、また個別計画を持っております。ごみ処理基本計画ですので、基本的にはご指摘いただいているようなことも、最近では記載しているところもあります。当然、環境配慮としては施設を建設するという計画がある中で、例えば施設ができて収集運搬体制がどうなって、環境がどうなるのかという項目を書かないと、逆に補助金がもらえないということになりますので、新規に施設を建築したりする場合は、そのようなことも網羅していくというのが現状でございます。基本的には一元化ということで、今ある処理施設を変えるということだけで、加東市だけでなく広域の行政と一緒にしていくことなので、今、ここまでできますと言い切れないところであるということと理解していただきたいと思います。

それと、目標値の話ですけども、環境基本計画及び行動方針の最上段の環境目標の部分に、温室効果ガス排出量を 25% 削減と記載しています。これは御存じのように京都議定書の 25% 削減ということで、要は、その時点から 25%、世界的に減らしていこうという思いから、その理念を書いているという目標です。なので、どんな取り組みか、本当に加東市で 25% 削減できたかどうかというのは、なかなか本当に調べようとも調

べられない。気持ちでこれをやっていこうということで、23 年度に決めた計画でございます。この計画は加東市で一番初めに取り組んだ計画でありますので、今ちょうど委員さんが議論されたように、一つ一つの項目に目標値を定めて、それに向けてどうなるかというのは、今でこそその考え方は定着してきていますが、その当時は、例えばの話をしますと、今出ました太陽光のところでしたら、どの辺が目標になっているかといいますと、太陽光発電の設置数、一般家庭、事業所を含む、というのが目標です。しかしながら、数値は書いていません。どういうことかといえば、設置数を増やしていけば、基本的にはCO₂削減になって環境配慮になるのではないかと、という理念的な目標がだからです。

冒頭の 5 ページまでについては、公共施設のことを書いていますが、この計画は公共施設の計画ではありません。皆さんと一緒に、市民の方々、事業者、行政が一体となって取り組んでいこうということでつくっておりますが、今出てきている情報は公共施設が多いという状況です。それは、計画の進行の部分に影響します。計画をどのように今後進行管理していくのか、実行していくのかというところがありますが、これは市民の方、事業者の方、そして市が一緒になって、協働で連携しながら取り組んでいこうという計画にしております。今は、行政が事務局として行政がしているので、行政の情報が多い状態ですが、説明の中にありましたように、パートナーシップ協定ということで、事業者のパートナーを今募集しているところであります。

現実には 28 年度はありませんでしたが、29 年度に数社増えていきます。これは 28 年度の報告にはあがりませんが、4 社見込んでおります。また、加東エコ隊は今計画の中核を担っていただいていますけれども、加東エコ隊としても市民の参画を期待しています。そういう市民参画、企業さんが集まってくると、自分達市民向けの視点や、事業者向けの視点が情報として蓄積されてきますので、計画の目指している、加東市の市民として受けとめられる私たちの計画になったなというようなところにいけると思っております。

委員さんからいただきました意見のとおり、一つ一つできることから、ということで取り組んだのが、25 ページ以降です。もう 10 年終わってしまうという中で、重点的に取り組むものを決めて、目標値を定めようということで昨年度に定めております。このため、26 ページ以降には目標値が入っていると思います。それまでのところは、今言いましたように数値が出てない。数値については、年次計画をこのように委員の皆さんの意見を聞かせてもらったり、事業者のパートナーの方々と一緒によりよい方向へ、進行管理のできる方向へ持っていきたいと思っております。

委員 太陽光の件ですが、今現在どんな状況ですか。

事務局 太陽光発電設備について、大規模なものは分かりますが、例えば 10 キロワット未満の件数は、それはどうしても把握することができません。家庭の屋根の上に乗っているものについて、こちらとしても把握ができない状態です。

委員 あれは、関西電力とか電力会社に聞くということができないのでしょうか。もし、それを公開してもらえるのであれば、すぐわかると思います。

太陽光発電設備の件数を、このくらい達成したらCO₂がどれくらい削減できますよという、数値的な件数を持たせたほうが、皆さん意欲が湧いてくると思う。

事務局 この環境基本計画の中では、太陽光発電を増やすというふうに書かれている部分があります。ただ、一方で逆に問題になっているのが、太陽光発電設備設置に係る乱開発。これもまた問題がございますので、それを指標化するというのはまた検討していく必要があると思います。

委員 太陽光発電設備を設置することによって、周りに迷惑をかけていることがあると思います。そういう苦情などはないですか。

事務局 苦情の件数は、こちらで把握しております。

委員 それらも公開したらいいのではないのでしょうか。

議長 公開はできるのですかね。

事務局 苦情は当然ありますが、環境基本計画と一体的に総合的に考えられるのかというところも含めて考えていきたいと思います。

議長 ほかにございますか。

委員 表現の事ですが、例えばLEDにしても2,258トン削減できているとか、負荷が軽減できましたとありますが、実際この数字がどんなものかということが、想像しにくいと思います。数値的にはこうなるのでしょうか、市民に訴えていくには、例えば電気代にしたらこれくらいだとか、極端な話ですが、私たちの地区は公共施設、公民館等は全部LEDに変えました。そうした場合に、年間の電気代が大体3万8,000円から4万円ぐらい必要だったものが1万8,000円ぐらいになりました。それを市民に言って実現できたときに、成果が出たと。一時的には高くつきましたが、それは十分3年ぐらい元が取れているわけです。電気代というのは皆さんで負担しますので、それが一時は高くなっても先を考えたら効果があったんだよという、目に見えることで。じゃあ私のところも個人的にLEDにしようかなとかという話も普及していきます。

そのため、市民に訴える場合は、もう少し比較しやすいとかわかりやすい数字に、何%とか何トンと言われても、それがどの程度なのかというのは非常に理解しにくいという気がしました。表現方法も市民にわかりやすい表現方法で、括弧書きで書くとか、標準的にはどんなものかを後ろに書くとか、もう少し市民に訴えるなら訴えるで、活字ばかりにした場合に、どこまで読んでそれをしようとするかということがあるので、せつかくの数字が無意味なものになっている気がします。

もう一つは資源ごみ集団回収について、奨励金として年3回以上で4円、1キロ当たり4円と書いていますが、実際どれだけあったのかというものが、たくさん参加されているのだなと思えば、じゃあ私も参加しようかなと思うこともあります。交付金はキロ4円というのは毎回している人からすれば頭に入っていますが、実際4円でどれぐらいお金になるものかというところが、ぴんときません。そういうわかりやすい表現方法をたくさん使うことによって、より多くの参加者や参加意識が高まっていくのではないかなと思いますので、そういう広告や表現方法を工夫していただけたらありがたいかと思いました。

事務局 そのあたりも、環境基本計画及び行動方針ということで、評価をどのようにするのかという説明をさせていただきましたが、基本的にはその評価検証に当たっては、事業者の方や市民の方が一緒になっていこうという、評価システムを充実させていこうという計画になっておりますので、そのあたりを充実させながら、方向性を確立させていこうと説明をさせていただきました。例示の仕方については工夫をするなど考えていきたいと思います。

委員 加東市の基本的なデータ、例えば土地がどう利用されていて、緑の山になっているところや、太陽光発電設備などができているところが、どのぐらいのあるのか、住宅に使っているのはどのぐらいで、耕地がどのぐらいあって、そのうちのどのぐらいが放棄されているかというような、データが変化していく様子が、政策立案とか自分たちの生活を振り返る手がかりになるような気がしますので、ごみも、単にトータルのごみの量になっており、焼却しなきゃいけないごみとそうじゃないごみがどのぐらい出ているのか、毎年どれぐらい排出して生活しているのかなど。これを見ていくと、最初の年はリサイクルが低迷している理由というのも振り出さないといけないだろうし、それから削減できるというのは生ごみをいかに軽くするかという話ですよね。そうすれば、収集する車の燃料も変わってくるというふうな関連したデータがあぶり出されるようなものを絵にして見せられると一番いいのではないかなと思います。私たちがどうやって生活しているかということが一番問題だと思います。

事務局 加東市になって10年が経過し、次のステップへということで、データを解析しながら、今後策をどのようにもっていくのかというのが重大であろうということを市の中で議論しております。今、そのデータをもとにまとめをやったところでもあります。ご指摘いただいたことについては、見えるようにしながら、納得いくような形でまとめ

ていけるように考えていきたいと思っております。

議長 確かに、基本的な部分を見ていくというのは大変重要だと思いますので、市民がわかりやすい表現で進めていっていただけたらと思います。ほかございませんか。

委員 ささいな話ですが、先ほどLEDの普及の累積を見るという話が出たかと思いますが、全部飽和した段階で、LED照明でリフレッシュすることは絶対に起きると思います。類似照明の更新計画というのは、蛍光灯の更新計画とはまた別の話になるかと思いますが、LED照明に変えようという方針を出したときに、更新計画は変更されているのでしょうか。この会議の話ではないかもしれませんが、少し気になりましたので。

事務局 管財部門が所管する部分で、今そこまでの詳しいものは持ち合わせていません。

委員 蛍光灯は管を換えて球を換えるかと思いますが、おそらくLEDは照明器具全部を交換するということになると思います。LEDの寿命は今までよりもはるかに長い期間である一方、廃棄する場合は全てを廃棄することになるので、その辺も含めて環境計画、環境行動指針の中に入れてもいいかなという気がします。

事務局 市役所の財政計画の中で、交換に当たって更新計画を立てていくわけですが、今のところ公共施設の整備が完全にできておらず、まだ整備段階というところで、10年間の計画を策定しております。それが5年経過したあたりになりますと、次の10年間はまた計画を策定することになりますが、その辺りにご指摘いただいた更新に関する部分が入ってくるのかなというふうに思っています。

それから、事業所の屋根にも太陽光発電設備を設置していますが、これも耐用年数が切れれば交換になるか、取り払ってしまうかということについても検討が加えられ、事業費も長期計画の中に盛り込んでいくということになると思います。今はまだ更新というところまではできていないというのが現状です。

ご指摘のことは基本計画の中に、各種施設、公共施設も含め、ライフサイクルコストを考慮して整備を進めると記載しています。

議長 例えば10年経ったら全部器具ごと交換しなければならないとなると、一挙に交換の事業が出てくることになります。計画的にできればいいですが、財政的側面を踏まえておかなければいけないということでしょう。

事務局 予算も含めて、後のことを考えながら進めているというのが現状です。

委員 4ページについてですが、市役所内部のことなのか市民の方のことなのかがわかりづらいところがあります。4ページの一番下のくくりですね。今後の方向性のところで、低炭素のまちづくりを実現するため、住宅環境性能を向上させる、これは市民のことなのかなと思いますが、また全職員が共通の環境意識を持ち云々のところ、これは職員のことなのかな、でも広報紙云々なら今度は市民のことになってくるんですね。市民、事業者が共有してということで、その辺を全体的に整理した方がいいのではないかなと思います。市役所の方は当然頑張ってもらわないといけないですが、もう少し整理をしたほうがいいのかと思いました。

あと電気のCO₂換算については、例えば関電が原発を動かすとなるとCO₂が大幅に減ると思われます。そうすると、電気の使用量は努力をしているのか、それとも関電がCO₂を減らしていて、その分が少なくなっているのか、というような部分がわからないので、両方を表記されるとか、工夫されたほうがいいのかと思います。

事務局 電気の使用量は、市役所の各施設や、ほかの公共施設から電気の使用量の情報をいただいて、どれだけ減らせているかというところを見ています。もちろん関西電力様の影響もあると思いますが、こちらの表記としましては、各公共施設でこれだけ電気代、電気の使用量が削減できたという表となっております。

委員 電気の使用量が23年に比べたら、14.6%減っていると見たらいいんですか。

事務局 これは電気だけではなく、ガスや水道のエネルギーも含めています。5ページの表は、ガソリン等の各データを換算しています。

委員 例えば、この中の電気の分というのは、CO₂換算するとき、ずっと同じ換算率でなくて、換算率自身は毎年毎年変わってきていますよね。

事務局 そうですね。

委員 変わってきているやつは使っていないね。CO₂が12.6%減らされているけど、実際は電気代というのはそんなに減っていないというのは事実ですね。

議長 今の表記の方法は分けたほうがいいかもしれませんね。

委員 「案」とありますが、これは市民の方に報告するんですかね。

事務局 「案」と書いてあるのはまだ公表されてなくて、この審議会で承認された後に、公表するときに「案」を取らせていただくことになります。ホームページで公表させていただくことになります。

委員 先ほども言われましたが、目標があって進捗が出てくる。ただ前年との差や比較だけで本当にいいのかということもあると思います。その辺、10年の数字というのはいろいろ変わってくるわけですから、その時はその時でまた変更や修正をしたらどうかと思います。やはり目標なく結果、前年度との比較だけでしたら、到達するところはどこのかということになります。

事務局 今日ありましたように、今日目標年度までを説明しました25ページ以降、32年度目標値を上げております。やはり、その段階で導入するということ、これ目標のほうが上がれば、それをまた修正して変更していくということは考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

4ページ以降につきましても、具体的な数字が入っているところとないところがありますが、目標がないということではなく、今後の方向性ということで、全て何らかの取り組みを記載していると、具体的数値も5倍以上を目指すということもありますので、いただいた意見は意見としてお聞きしまして、今後また29年度の報告の内容につきましては、よりわかりやすいようにできるようには考えていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

議長 29年度の計画をつくる段階で、25ページ以降の目標値というのは32年度に向けた目標値になっていますので、28年度を踏まえて29年度の計画、それにどう上乗せしていくかというような数値的な目標になるんでしょうけども、できることからやってみないと、できないことはもう仕方がないので。ほかございませんか。

議長 今皆さんのご意見を聞いていますと、やはりそれぞれの目標というのは、しっかりとできるだけ数値化すること。数値化できないものもありますから、その辺のところは仕方ないかなと思いますが、できるだけ数値化して、目標値を明確にしていくというのは行動指針にかなり影響していると思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

他にご意見がないようでしたら、皆さんの大変貴重なご意見を整理していきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。審議を進めて、後決裁をしていきたいと思っておりますが、よろしいですか。

〔「異議なし」との声〕

議長 そうすると、今まで御意見いただきました内容につきまして、当審議会として市が決定することについて賛成のことといたしますが、いかがですか。

よろしい方につきまして、挙手をお願いします。

〔全員挙手〕

議長 全員賛成するということでございますので、ありがとうございます。なお、答申書の内容につきましては、先ほど出された意見を盛り込むことにしまして、内容につきましては会長一任ということでご異議ございませんでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」との声〕

議長 ありがとうございます。ご異議がないようですので、これで議事を終わらせたいと思います。審議につきましては終了しましたので、これをもちまして平成29年度第5回加東市環境審議会を終了したいと思います。委員の皆さんにおかれましては、慎重審議本当にありがとうございました。

4 閉会

平成30年 5月 17日

議長 三 木 秀 文

署名人 松 尾 美 智 子

署名人 神 戸 洋 一